

広報ひがしの

No170

令和2年

2020.12.1

人口1663人

(男)839人

(女)824人

世帯数

626世帯

(R2.11.1現在)



真っ青な空の下で 10月3日(土) こども園・小学校運動会

こども園の園児は、ミツバチの衣装を身に着け、「スズメバチに気をつけろ!」のダンスを披露してくれました。かわいらしいコスチュームで一生懸命踊る姿に、園児の家族からは「かわいい」「すくなく上手だよ」と声援が送られていました。一生懸命声掛けをするとこりで大きな拍手が起きました。



コロナ禍の中、大勢の方のご来館と作品の出品ありがとうございました

サークル・住民の文化作品展・ふれあい写真展開催

10月24日（土）～11月1日（日）まで、文化作品展・写真展が開催されました。密にならないよう、9日間の期間を設け、皆様から出品していただいた力作を多くの方にご覧いただきました。自分の作品をうれしそうにじっと見つめるこども園や小学生の子どもやその保護者の姿が見られました。また写真展の作品を見ながら、「ここはどこだろう。」「みんなきれいに撮っている。」などと感想を話しながら見る地域の方が多くいらっしゃいました。



園児の作品

今回は特別に『100年前の児童作品』と銘打って、コミセンが所蔵する東野小学校や農業補習校の卒業記念の書画8点を展示しました。



明治末期から大正初期の児童作品

明治・大正の児童の達筆さに驚く方がたくさんいらっしゃいました。中には、自分の祖父母の小学校時代の作品を見つけじっと見つめる方もいらっしゃいました。

作品を見に足を運んでいただいた皆様、日頃からコツコツ制作した作品をご出品いただいた皆様に心から御礼申し上げます。



個人出品



ご参観いただいている様子



あすなろ会



東野小学校



東雲連合会



東野ふるさと写真展も同時開催しました。ふるさと写真展の受賞作品の紹介は、171号に掲載します。

優秀賞 『ホタル川』 荻山 清和（中津川市）

『見守られて』 吉村 緑（中津川市）

優良賞 『暮れる頃』 吉村 清（中津川市）

『春の田園』 安藤 秀美（串原）

佳 作 『散歩』 丸山 文憲（東野）

『放流』 千藤 恵三（東野）

『西山に沈む夕日』 土方 博美（東野）

『白梅と御嶽山』 渡辺由利子（東野）

『東野駅満開の桜』 後藤 武重（東野）

『春全開』 永野 憲男（東野）

『秋の田園風景』 丸山 年道（東野）

『保古の紅葉』 三宅 一嘉（東野）

『今年も元気です』 河村 忠正（大井町）

『秋日』 青木 孝義（中津川市）



住まいが被害を受けたとき 最初にすること

「令和2年7月豪雨」では熊本や大分、岐阜県の飛騨川等全国各地に大きな被害をもたらしました。洪水により尊い人命を奪った様子、家屋の倒壊や流失等の光景が毎日のようにマスコミに紹介されていました。

考えたくはありませんが、住居が災害に見舞われたらどうしたらいいでしょう？

住まいが被害を受けたときは、あまりのショックに、何から手を付けたらいいか分からなくなるかもしれません。そんなときのために知っておいていただきたいことを紹介します。

1 被災したときに最初にすること

住まいが被害を受けたときは、早く家の片付けや修復作業に取り掛かりたくなるかもしれません。しかし、その前に、まずやっておきたい重要なことがあります。



■被災状況を写真で記録する

家の被害状況を写真に撮っておきましょう。市から、罹（り）災証明書を取得して支援を受ける際や、損害保険を請求する際などに、たいへん役に立ちます。家だけでなく土砂崩れなどの災害も同様です。

＜写真の撮り方のポイント＞



- ・家の外をなるべく4方向から撮る
- ・室内の被害の状況も分かるように撮る
- ・浸水した場合は浸水の深さも分かるように撮る

※システムキッチンや洗面台などの住宅設備、家電などの被害状況も撮っておく

※自動車、物置、農機具などの被害状況も撮っておく

災害後は、修復作業の請負いを装う詐欺が発生する傾向がありますので、十分注意してください。

2 家屋の片付け

- ・作業時の服装と注意点
- ・クギや木材でケガをしないよう肌の露出を避けます。
※破傷風菌が傷口から侵入し、破傷風に感染する恐れがあります。破傷風は致死率の高い感染症です。
- ・ホコリや砂を避けるようマスクなどをします。
- ・こまめに水分を取り、休憩をとることも大切です。



服装や持ち物の一例

□帽子、ヘルメット	□マスク
□革手やゴム手袋	□オル
□長袖・長ズボン	□着替え
□食べ物・飲み物	□常備薬、目薬など

3 罷（り）災証明書と住まい・生活への公的支援

り災証明書は、災害による住宅の被害の程度を証明するものです。支援金や災害義援金の受け取り、税金などの減免、仮設住宅への入居申請などの際に必要となります。り災証明書の発行手続きは恵那市役所で行ってください。

4 その他

■住まい・生活への公的支援

被災者生活再建支援法に基づく「被災者生活再建支援金」や、災害救助法に基づく「応急仮設住宅」への入居や住宅の「応急修理制度」などの支援があります。これらを受ける際に、り災証明書が必要になります。

その他の支援金や公的援助

- ・被災者生活再建支援金
- ・仮設住宅など当面の住まいのあっせん
- ・住宅の応急修理

恵那市に災害救助法が適用された場合、住家の全部または一部に土石や竹木等の障害物が運び込まれ、日常生活に支障をきたすような場合、これらの土石や竹木等の除去に対する支援が受けられます（自力では当該障害物を除去できない方が対象）

＜政府広報オンラインより引用＞

地域を知る・東野を知る

東野の組の世帯数・人口推移 恵那市史通史第三巻（2）を参考にまとめました

東野は一時期、2つの村だった

東野は江戸時代のはじめ、すでに一村として成立していました。明治2年、凶作による飢饉がもとで上東野村、下東野村に分かれましたが、明治4年7月、廢藩置県により岐阜県が統合されたのを機に上、下東野村は合併して東野村となりました。（現在の上組、下組の成立は上、下東野村の名残です）明治22年町村制施行も一村で存続しました。こうして昭和29年、合併して恵那市になるまで、他町村と合体したことはありませんでした。

ここで、東野村内組(自治会)と世帯数の推移を見てみます。（アパートの世帯数は含まず）

	江戸時代～大正始	昭和20年		昭和43年		平成元年	平成31年4月1日	令和2年4月1日
	戸数	戸数		世帯数	世帯数	世帯数	世帯数	世帯数
向 島	17	向島	22	20	21	15	15	15
下 沢	9	下沢	10	11	11	10	10	10
中 島	12	中島	13	13	15	14	13	13
天王前	24	南天王前	18	16	16	16	16	16
		北天王前	12	13	14	16	17	17
小麦田	15	小麦田	17	18	17	13	13	13
井の下	13	井の下	16	14	15	14	13	13
万 場	24	南万場	12	10	9	8	8	8
		北万場	15	15	16	17	15	15
浜井場	不明	上浜井場	15	14	14	12	11	11
		下浜井場	12	12	13	13	13	13
小野川	13	小野川	18	16	15	12	12	12
中 辻	15	中辻	20	21	28	29	29	29
下 辻	18	下辻	18	18	17	15	16	16
中 切	17	南中切	13	22	23	23	23	23
		北中切	15	20	28	26	26	26
宮の前	20	宮の前	22	21	24	宮の前	21	21
						北山	19	19
北大門	21	上大門	18	16	22	20	19	19
		下大門	16	15	16	14	14	14
南大門	14	南大門	18	17	18	17	16	16
染 戸	23	染戸第一	13	上染戸	10	12	13	13
		染戸第二	10	下染戸	10	10	10	10
		その他	11	白坂	19	38	56	57

広報ひがしの164・165号で東野の小字名の由来等をお知らせしました。地域の方から地名の由来について、別の説を教えていただきました。ありがとうございました。自治会名についても、昔から続いているもののほか、世帯の増減や人口等、社会的要因によって変遷していることが分かりました。

古地図や古文書ではなく、恵那市史や『郷土東野村』（三宅道一朗先生著）、『私たちの郷土 東野の昔と今』（東野小学校発行）等からも昔の東野の様子がうかがい知れます。皆さんのご自宅にも、昔の東野の様子を伝える著書や発行書籍等があるかもしれません。

蔵や倉庫の整理を行った際、興味深いものがありましたらコミュニティセンターまでお知らせください。



郷土東野村

地域を知る・東野を知る

リーム廻し？　—住民運動会を調べる—

今年開催していれば、第45回目の住民運動会だったのですが、3密を避けるため、残念ながら中止に追い込まれました。例年は運動会の結果を掲載していましたが、今年度は運動会が行われなかつたため、この機会に東野で行われた運動会の歴史をお知らせします。人間の記憶は薄れるのが速く、住民運動会の変遷を調べながら、そうだったっけ？と思うこともあります。

右の東野町民大運動会プログラムは昭和55年、第6回町民運動会のプログラムです。農協青壮年部出場の『明るい農村』がどのような競技だったのか不明です。

『リーム廻し』も内容が分からぬ方が多いと思います。リーム（リム）廻しは、戦後遊び道具の不足した時代、解体した自転車のタイヤからリムを取り出し、棒でバランスを取りながらリムを押し、転がし進める遊びでした。当時は、どの子どもも上手に回したそうです。昔は誰でもできた遊びを運動会種目に採用し、競技にしました。



小学生によるマーチング（昭和54年）

住民運動会が始まったのは、東野の一大行事であった東野歌舞伎（最後は旧小学校講堂で開催）が昭和45年以来行われなくなり、昭和47年に恵東座が解体されました。住民が一つにまとまる機会がないことを心配した有志が中心となり、住民運動会開催に向け準備を行い、運動会開催の運びとなりました。

初期のプログラムを見ると、娯楽性が強く。住民が楽しめ、東野が1つにまとまるような種目が多いようです。

平成12年 特色のある種目 ニュージー・カタマラン500走り出し

今も續く種目 打ち上げ回収・アトモアトモリレー

*この頃は数組の自治会を二つの軍とし、紅、白、緑、黄の4つの軍で競技をしていました

平成15年 運動会のあり方を見直し、名称を『東野住民体育祭』から『東野

『住民ふれあい体育祭』に変更しました。人数確保に苦労するという声から4軍から2軍に変更し、競うようになりました。

平成17年 特色のある種目 スピードガンコンテスト

平成20年 東野音頭を児童種目から住民全員の参加種目に変更しました。初期のころは、昼休みの余興は、右の写真のように自治会有志による仮装行列を行い、住民の爆笑を誘っていました。



昼休みの金曜（昭和54年）



第41回平成28年度 町民運動会（川人砲）

平成27年 長い間途絶えていた、リム廻しが60才以上の種目として復活し、平成28年も行われましたが、リム廻しを経験したことがない世代が多く、難しすぎる、時間がかかりすぎるという意見から東野住民運動会伝統のリム廻しが消えてしましました

* *

住民運動会は、青年団の消滅や多忙化等々の理

由から参加率が年々下がっていました。そこで、平成15年、本来の目的のように、住民がお互いに集い楽しんだり触れ合ったりできる運動会にしようと検討し、時代に合わせて今の形の運動会になったことが分かりました。

地域の話題

草刈り2題

細心の注意で草刈り作業 東野公務員OB会



東雲連合会

10月2日（金）、公務員OB会が、えな斎苑下の桜が植樹されている場所の草刈り作業を実施しました。今年3回目ですが、気候が涼しくなり、真夏のような辛さはありませんでした。が、彼岸花が群生していて、これを刈らないように細心の注意を払い、刈払機を操作しました。さすが作業に手慣れたもので、日ごろ鍛えた技を駆使し、彼岸花はほとんど刈られず作業が進みました。



ボランティアで小学校の草刈り作業 東雲連合会

運動会の1週間前、9月26日（土）朝からグラウン

ドの除草作業をしてくださいました。午前中で作業が終了しました。彼岸花の花期は短いため、今年はもう見られませんが、来年カメラ片手に出



除草してください、 数時間ですっかりきれいに整ったグラン

ドになりました。

草は伸び放題でした。雨上がりの水しぶきが飛ぶ中、黙々と草刈り機を使い除草してください、

除草してください、

数時間ですっかりきれいに整ったグラン

ドになりました。

子どもたちは10月3日、美しく整

備されたグラウンドで新しい生活様式に則った運動会に臨むことが出来ました。

10月3日、

収穫したコメを使い、12月の収穫祭で五平餅作りを行いました。

昔の道具を使って脱穀体験 10月9日（金） 小学校では、台風の影響で雨降りのため、急きよ、体育館通路に稻わらを運び、脱穀体験をしました。郷土資料館から体育館通路に、江戸時代から使われた千歯こき、大正時代から昭和20年代まで使用された足踏脱穀機を持ち込み作業開始。最初に千歯こきで脱穀。歯に糲が多いかかり、稻を引き抜けない児童が続出。講師の丸山文憲さんのアドバイスで、稻の本数を減らし、ようやく糲をはずすことが出来ました。中には、たくさんの稻を鉄の歯にかけ、力いっぱい引っ張ると、周りからの「頑張れ！」という大きな声援を受け、上手に糲をはずし、ちよつと自慢気な顔の児童もいました。



担任の井口先生も人生初チャレンジでしたが、子どもたちの良いお手本を見せてくれました。後半は足踏脱穀機を使い脱穀体験。千歯こきと

城ヶ峰神社の草刈りや掃除は、大雨で実施できなかつたため、翌日、会長等一部の役員で行いました。



優良運転者表彰

藤井三千郎さん（下辻）

が優良運転者として、特別優秀章を受章されました。特別優秀章は、運転経験20年以上、無事故無違反が15年以上の運転手が対象となります。地区・県模範章、県優良章、県優秀章を経て初めて受章できるものです。みなさんも、藤井さんの長期に渡る運転を範として、安全運転に努めていきましょう。

保古山城ヶ峰神社祭礼 10月10日（土）

台風14号の接近のため、会場を恵那山荘に移し、秋の祭礼が執り行われました。新型コロナウイルス感染の防止のため、東野生産森林組合役員のみで執り行われました。

江戸時代に安田善左衛門たちの努力により、東

野村と茄子川村との山争いが決着し、山境が確定

した記念として建立され

た神社のある根の上で昔

を偲び、東野の山を守り

育てた先人の苦労と努力

に感謝しながら祭礼は終

了しました。

ふれあい弁当の申込について

今年3月以降、新型コロナウイルスの影響により実施を見合わせております

たが、10月から感染防止に十分注意しながら、開始することと致しました。今

までのお弁当とは内容が異なることもありますが、今年度もよろしくお願ひ致します。お弁当の旬の食材にはボランティアの方の差入れを使っております。

ふれあい弁当は、高齢者世帯の方へ不足しがちな栄養素を補つて頂けるよう、ボランティア「結いの会」のみなさんが、季節の食材を使つたお弁当を作つてお届けしています。

毎回30食程をお作りします。ふれあい弁当で日頃とは違つたお食事を味わつて頂きたいと思います。

お申し込みは振興事務所までお問い合わせ下さい。

一日・・毎月第3金曜日12時00分から12時30分
お問い合わせ 東野振興事務所
☎ 261-2244



弁当を作る『結いの会』の皆さん



10月16日のふれあい弁当

地域の話題

でつかい芋が採れました 10月15日（木）こども園5月末に植え付けたサツマイモが大きく育ち、この日収穫となりました。東雲連合会の皆さんのお手伝いで、大きな芋が採れました。

ペアの子どもと力を合わせ、ヨイショヨイショと声を掛け合い、力いっぱいツルを引きました。子どもたちは、

でつかい芋を自慢げに見せてく



東雲連合会の皆さんのが園を楽しみにしている園児もたくさんいるそうです。



こども園では、収穫したサツマイモを使い、10月28日（水）に焼き芋大会を行いました。お手伝いいただいた東雲連合会の皆さんは10時30分から始まる焼き芋大会のため、朝8時頃に来園し、準備を進めてくださいました。杉の葉に点火し、煙突状の燻炭（くんたん）器を置き、モミ殻をかぶせました。モミに火が回り、焼き芋作り開始、火の勢いが強く、頬まで熱さが伝わってきました。おつかなびっくり近づき、サツマイモを投入。



じっくり焼いたサツマイモはとても甘かったようで、「おいしい！」と言って、焼き芋を頬張っていました。

パンジーとビオラで花壇作り 東雲会 10月31日（土）

10月末の寒い土曜日、東雲連合会の役員がコミセンに集合し、交通安全講習会を受講しました。その後、支部ごとに分かれ、作業を開始しました。花壇は、浜井場と東野、大門交差点にあります。

秋花壇には大きな花をつけるパンジーと小ぶりな花をつけるビオラを植えました。苗の色を考え、咲いた様子をイメージしながら全体をレイアウトしました。畝を切り、協力しながらマルチシートをかけました。中腰になりながら、一株一株丁寧に植えていきました。

まだ小さく頼りなく見えますが、厳しい冬を乗り越え、春を迎える頃には、美しい花が通行人を楽しませてくれるでしょう。

文芸

花無山句会 自選句

令和2年10月30日 東野コミュニティセンター



合掌で迎える僧や秋彼岸

十三夜眼れぬ夜の空明かり

千藤猛司

灰色のシャッター街や秋寒し

内木伊津子

三脚の高きから声松手入れ

市川 芳子

花

花

乳幼児学級「すくすくクラブ」「なかよし広場」



「なかよし広場」

月1回の自主的な活動です。

入園前のお子さんがいらっしゃる方が
自動的に活動する場です。すくすくク
ラブの参加者だけでなく、卒級生の保
護者も大歓迎です。

今年度は9月以降毎月ストレッチを予定していま
す。



「すくすくクラブ」

・乳幼児がいらしゃる父母（祖父母の参加もOK）が
参加できます。

「本の読み聞かせ」「防災」「食育」等を通して子育
てについて、学んだり、親同士、子ども同士の交流の
場としてご参加ください。
※ご希望の方は、ココニティーセンターまでお問合
せください。



10／22（木）に「消防署見学」の為、恵
那市消防署へ行つきました。乳幼児に
対する応急処置、赤ちゃん人形を使つて
実技を交えながら心肺蘇生法を学びまし
た。また地震体験車に乗り、震度別に地
震を体験しました。とても興味深く参考
になる事ばかりでした。その後消防車に
乗つて写真撮影も出来、いい時間を過ご
すことが出来ました。



発 行

東野コミニティセンター 8二二六一五五五
東野地域自治区運営協議会 8二二六一三四四

編集後記

今年は新型コロナウイルスのため、夏祭り、ふれあい体育祭、文化祭等の恒例の行事が軒並み中止に追い込まれました。そんな中で、文化作品展示会と写真展は何とか開催することが出来ました。9日間の長期開催だったため、皆さんは空いた時間を見つけ、200名を超す方々が来館してくださいました。密にならないため、静かな会場でじっくりと鑑賞される方が多かったです。▼ふるさと写真展は昨年度よりも25点多い57点の作品を見ていただくことが出来ました。今年の作品は粒ぞろいのものが多く、見学者も投票する作品を決めかね、何度も見て決める方もいらっしゃいました。写真展が今以上に盛況となり、ふるさと東野の再発見のきっかけになればうれしい限りです。▼今年はコロナ禍という言葉がピツタリ当てはまる年になってしましました。3月や4月の頃は、新聞にコロナ禍という文字が出ても、「禍?」「コロナうずつて何?」という会話をされた方もいたかと思うます。▼『禍』という漢字の意味は、予期していなかつた災難や不幸、厄などを意味する語です。音読みでは「か」、訓読みでは「わざわい」「まが」と読みます。1年前には想像すらできなかつたコロナ禍の年でした。▼人と楽しく過ごす事、家族や友人と旅行に行く事、仲間や地域の人と会食する事等、普通だと思っていた事が当たり前ではないと感じさせられた1年でした。来年は、希望に満ちあふれた文字で紙面を飾る年になりますよう願つて止みません。

(杉)